

第24回政府現地対策本部会議、第27回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年5月4日（水） 16：30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

気象台より後ほど説明

2 被害の状況

人的被害については、死者・行方不明者とも前回と変更なし。

重軽傷者については、1,576人の報告があがっている。

住家被害については、まだ調査継続中であるが、全壊、半壊、一部破損合計で54,880棟の報告となっている。

避難の状況について、27市町村において、避難所数375カ所、避難者数18,017人で前回から1,492人減っている状況。

避難指示等の状況は、避難指示6市町村、避難勧告8市町村において発令中。

3ページ以降は、今申し上げたものの内訳を3ページから8ページに、それから、9ページ、10ページには、県・関係機関等の活動状況を掲載している。

3 県等の対応状況

(総務部)

被災市町村等への人的支援状況について、本日時点で2,000人規模の支援を継続している。内訳については、資料のとおり。

(健康福祉部)

4ページ目の23番、一時的な生活費をお貸しする緊急小口資金貸付の特例措置を始めている。5月6日からここにある市町村で先行実施し、5月9日に全市町村実施という予定。

(環境生活部)

水道施設の被害状況であるが、菊池市で濁度解消により飲用制限が解除。山都町も同様。南小国町は1地区を除き、濁度解消により飲用制限が解除。

依然として、断水が継続している状況だが、※は家屋が大きく損壊した地域で、地域復興に併せて水道復旧を行うことから、断水解消には時間を要すると見込まれる。なお、各所から応援が相次いでいる。

廃棄物処理施設の状況について、停止中のごみ処理施設は、熊本市の東部環境工場の1号炉で、2号炉は5月3日の夕方から復旧して稼働している。

次のページからが災害廃棄物の処理に関する対応状況。

県の産廃協会等の協力を得ながら、市町村の支援を行っている。

それから、4ページに追加している家屋の解体費用の国庫補助について、昨日、環境大臣に来ていただいた。その際、東日本大震災並みの対応ということで、市町村が行う全壊又は半壊家屋の解体費用について国庫補助の対象とするという通知が来ている。ただし、この国庫補助の対象となるには、罹災証明と家屋所有者の同意が必須である。

(上記条件が周知されず) 混乱を招かぬよう、今後、市町村・住民へ、上記条件の周知広報を行いたい。同時にマスコミに(本制度・条件について)報道協力をお願いしている。

(商工観光労働部)

資料の裏面に追加情報を入れているが、詳細については、省略。

(土木部)

特になし。下線部の変更のみ。

(教育庁)

別綴じの被害状況報告第23報3ページ目、公立学校の再開状況について

①高等学校、②特別支援学校については、5月10日に全校再開予定で進めている。

③中学校・小学校・幼稚園については、それぞれの学校の状況に応じて各市町村教育委員会で再開時期を決定するが、引き続き、しっかり連携・支援していきたい。

最後、4ページ目について、阿蘇地域の生徒等に対する緊急通学支援の実施について、(1)阿蘇地区と(2)南阿蘇地区について、それぞれ通学手段の確保をやっていききたい。

(1)阿蘇地区については、後ほど、JR九州さんから説明があると思う。

本支援については、休校中の県立・私立高校等の学校再開に合わせて、5月9日から実施できるよう、準備を進めている。

(県警本部)

本日も被災地における防犯パトロール、避難所等における相談防犯対策、渋滞対策として、主要交差点での交通整理等を実施している。

4 国等の対応状況

(環境省)

着任の挨拶、環境省大臣官房審議官の深見でございます。昨日から着任。よろしくお願ひします。

(消防庁)

特になし

(自衛隊)

活動状況は昨日同様

(海上保安本長)

引き続き、熊本港において巡視船による入浴、給水等の生活支援を実施している。

(気象台)

地震の発生回数は、13時現在で1,200回となっている。

なお、15時現在の集計で1,202回となっている。

引き続き余震活動が活発な状態が続いているので、最大震度6弱程度の揺れに注意が必要。

天気の方は、明日は晴れ、寒暖の差が大きくなる。前線南下に伴い明後日以降は、雨、曇りの日が多くなる。

(JR九州)

教育庁より話があったが、豊肥本線の不通となっている肥後大津駅から宮地駅間の主に地元の通学利用者を対象としたバス輸送について、ご案内申し上げます。実施期間は5月9日から当分の間。運行本数は、平日の朝・夕のみの運転、上下19本。

5 政府現地対策本部長の発言

(牧島政務官)

連日の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

皆様のご努力のおかげで、本日も各部局より進捗の状況のご報告をいただいたことを心からありがたく思っている。

寒暖差があるというご報告もあった。体調管理ということ、避難所の環境を整備するというところに国としても心がけながら進めて参りたいと思う。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

活発な余震活動が続く中、日中の気温が高いことから、熱中症など体調に十分な注意をお願いしたい。

4月14日の地震発生から20日目。一時は18万人を超えていた避難者数が、10分の1までになっている。県や熊本市では公営住宅の提供がスタートした。生活再建が着実に進んでいる証だと感じている。

このような中、「くまもと復旧・復興有識者会議」を開催する。

この会議は、5月10日、11日の2日にかけて、熊本の「創造的な復興」をテーマに、過去の大規模災害の復興について知見を有する有識者の方々に緊急にお集まりいただき開催するもの。

会議では、すまい対策や交通インフラの復旧など、短期的に解決すべき事柄や、文化施設や公共施設、ひいては経済の復興など、中長期的に取り組むべき事柄などについて、これまでの震災の教訓等を踏まえて多角的な視点からご検討いただきたいと考

えている。

この会議のまとめとして、今後の熊本発展の礎となる、創造的な復興に向けた緊急提言をいただきたいと考えている。

避難者支援や住まい確保に加え、インフラ等の復旧・復興など、「チームくまもと」として一緒に頑張っていきたいと思う。皆様方の御協力をよろしくお願いしたい。

(以 上)